

MRTプログラム アンケート結果（2015年5月実施）

学年	登録者数	回答者数	回答率
1年生	-	1	-
2年生	4	3	75.0 %
3年生	11	6	54.5 %
4年生	21	4	19.0 %
5年生	13	2	15.4 %
6年生	18	6	33.3 %
匿名	-	1	-
合計	67	23	34.3 %

Q1. 研究室に行き始めたのは何年生から？		
学 年	人数	割合
1年生	6	26.1%
2年生	7	30.4%
3年生	8	34.8%
4年生	1	4.3%
5年生	1	4.3%
6年生	0	0.0%

Q2. MRTを始めた理由は？（※選択式 複数回答可）		
※「MRTをせず」にラボへ行くという方法もあるが、それを選ばずに、MRTに申請した理由		
理 由	人数	割合
なりゆきで(MRTに入る前からラボに参加していた)	10	43.5%
「ラボに行く」＝「MRT参加」と考えていた	6	26.1%
先生や先輩から勧められた	8	34.8%
特に理由はないが、やってみようと思った	5	21.7%
英語クラスに参加するため	2	8.7%
ニューヨーク研修に行くため	0	0.0%
基礎配属で楽なラボを選ぶため	0	0.0%
その他	1	4.3%

Q3. 現在のラボを選んだ理由は？（※選択式 複数回答可）		
理 由	人数	割合
研究内容に興味があった	13	56.5%
その先生のもとで学んでみたかった	12	52.2%
その先生の講義が面白かった	6	26.1%
先生に誘われた	7	30.4%
先輩に誘われた	0	0.0%
特に理由はない(どこでもよかった)	1	4.3%
その他	1	4.3%

Q4. ラボへ行く頻度は？（※自習などは除く。選択式）		
頻 度	人数	割合
月に1～2回程度	6	26.1%
週に1回程度	4	17.4%
週に2～3回	5	21.7%
週に4回以上	8	34.8%
長期休暇時のみ行く	0	0.0%
ほとんど/全く行っていない	0	0.0%

Q5. 成績の変化は？（※MRTが原因と考えられる変化に限定、選択式）		
成績の変化	人数	割合
向上した	1	4.4%
低下した	3	13.0%
特に変化はない	16	69.6%

Q6. 部活には入っていますか？		
回 答	人数	割合
入っている	10	45.5%
入っていない （「辞めた」「入っているがほとんど行っていない」も含む）	10	45.5%
引退した	2	9.1%

Q7. アルバイトはしていますか？（※選択式）		
回 答	人数	割合
している	9	39.1%
していない	14	60.9%

Q8. 実験形態は？（※選択式）		
実験形態	人数	割合
自分一人で独立したテーマで実験している	13	56.5%
先生や大学院生など、特定の人への補助として日常的に実験をしている	3	13.0%
行きたい時や、先生・先輩に呼ばれた時など、スポット的に実験をしている	3	13.0%
実験はほとんど行わず、勉強会などのみ参加している	1	4.3%

Q9. 進路の希望は？（※選択式）		
希 望	人数	割合
臨床に進みたい	1	4.3%
臨床をしつつ研究もしてみたい(臨床が中心)	14	60.9%
研究をしつつ臨床もしてみたい(研究が中心)	5	21.7%
基礎に進みたい	2	8.7%
まだ全く決めていない	0	0.0%

Q10. 卒業までの目標はありますか？（※選択式 複数回答可）		
目 標	人数	割合
国際誌への論文投稿	14	60.9%
学会発表(口頭・ポスターは問わない)	4	17.4%
実験手技や論理的な考え方を学ぶ	10	43.5%
特別目標らしいものはない	3	13.0%
その他	0	0.0%

Q11.現在の到達段階は？（※選択式 複数回答可）		
到達段階	人数	割合
自分が筆頭著者の論文がある	1	4.8%
学会で口頭発表した	2	9.5%
学会でポスター発表した	1	4.8%
全国・関東リトリートで発表した	6	28.6%
筆頭著者ではないが自分の名前が載っている論文がある	5	23.8%
先生や先輩が行った学会発表のスライドやポスターに自分の名前が載ったことがある	3	14.3%
上記以外	10	47.6%
その他	2	9.5%

部活とMRTを両立させる方法

- 1 空いてる時に行くってことしか言えません。それぞれの部活で時間が違うので、計画的に実験すれば大丈夫かと思います。
- 2 サークルに行く頻度を減らす。
- 3 何となく実験するのではなく、実験の目的をよく考えて、スケジュールリングを工夫する。
- 4 「モンスター」と「カフェイン錠」。
- 5 気合。
- 6 寝ない。

アルバイトとMRTを両立させる方法

- 1 時間の融通の利くアルバイトを選ぶ。
- 2 バイトのない日の予定を減らす。
- 3 休日などにアルバイトを行ない、平日の授業終わりなどに実験を行う。
- 4 何となく実験するのではなく、実験の目的をよく考えて、スケジュールリングを工夫する。
- 5 (アルバイトせずに済むよう)奨学金をもらいましょう。

MRTで「良かった」こと

- 1 基礎研究する人の大変さを身を以て感じることができる。
- 2 自分の所属している場ができたこと。先輩や後輩などの知り合いが増えたこと。将来学位などをとるための研究の準備などを学生のうちから学べること。MRTの英語のクラスを受講し、NYでの留学ができること。
- 3 普段勉強していても気づけない考え方や最新の医学事情を知るきっかけとなっています。
- 4 研究の現場の雰囲気を味わえたこと。先生や先輩方によって進められるその研究分野の今日を肌で感じることができたこと。より具体的にいうならば、情報収集、考察の流れ、研究の手法などを間近で見聞きすることができたこと。
- 5 視野が広がった。論理的な思考を身につける機会になった。他大学との交流の機会。院生や先生方など、部活とは違ったコミュニティを得ることができた。・研究室や実験が身近になる。
- 6 ある特定の分野に詳しくなれる。先生とのつながりが出来る。研究をしている仲間が見つかる。
- 7 全国リトリートでの発表機会をいただけたこと、その際に金銭面で補助していただけたことが助かりました。また学内MRTリトリートで、他の学生がどんな研究に関わっているかを知る機会が得られた点が、ラボに通っているだけでは分からない、MRTプログラムならではの良い点だと思っています。
- 8 教室に行きやすい。
- 9 研究というものを具体的にイメージできるようになったこと。実験手技、論文の読み方、実験計画の立て方など研究を行うために必要な能力を鍛えることができたこと。

- 10 海外インターンや国内留学に行く際に普通の学生よりも手続きが楽な気がしています。
- 11 統計処理の初歩的理論が身につく。
- 12 論理的な考え方やプレゼン力が少しは身に付いた気がした。
- 13 生命の美しさを体感できた。
- 14 今のところは実験方法を学べること、新しい知識を身につけられること、研究の進め方を学べることです。
- 15 研究の面白さ、つらさを体験できたこと。交友関係が広がったこと。
- 16 建設的な思考回路を養えつつあること。机をゲット。
- 17 研究の世界を覗けること。
- 18 研究の面白さを知れました。
- 19 将来、自分がこれで生きていきたいという道を見つけられたこと。
- 20 将来のために早いスタートが切れる。
- 21 研究室の教授や准教授をはじめ、色々なバックグラウンドを持つ個性的な人たちと出会えて刺激になった。
- 22 英語クラスに入ることができた。

MRTで「悪かった」こと

- 1 研究室にこもるようになった結果、他の同級生との関わりが減り、情報弱者に磨きがかかってしまったこと。
- 2 実験によっては長時間拘束されることがある。
- 3 失敗がある以上、無駄な時間はたくさんできてしまいます。ほかの時間に仕えたんじゃないかという後悔はありますが、それは仕方のないことです。しかし、スキルは少なからず向上していくと思います。
- 4 忙しい。
- 5 「殺人的に忙しい」が口癖になる。
- 6 忙しい時には何かが中途半端になってしまうことがある。
- 7 寝不足気味。臨床の勉強時間は減った。（追試になったことは一度もありません。）バイトをする時間があまりない。
- 8 講義・実習と研究の狭間で、時間の配分が難しいと感じることがあった。
- 9 周囲から意識高い系だと勘違いされることがたまにある。
- 10 夜や休日、学生証を持たずに外に出て、学校に入れなくなることがある(携帯をもっていないと、変質者のごとく外で誰かが来るのを待たなければならない)
- 11 テストと実験が重なると大変です。
- 12 睡眠時間が劇的に減った。
- 13 マウスがくさい。
- 14 講義・実習と研究の狭間で、時間の配分が難しい。
- 15 実験がうまくいかないとき、「自分は何でこんな不毛なことをしているんだろう」とか「この実験がうまくいったとして、医学に何の貢献ができるのだろう」などと考えてしまうことがある。
- 16 特になし(複数)

MRT未参加の方へのアドバイス

- 1 まず一歩踏み出しましょう。
- 2 早いうちからチャンスがあれば、チャレンジするのが大事だと私は思っています。知識がないとか、経験がないとか、英語が喋れないとか、実際に飛び込めばどうとでもなります。そのチャレンジを金沢大のMRTは必ず後押ししてくれます。そのために是非、MRTに入ってみてはいかがでしょうか。
- 3 プログラムといっても特に大きな縛りがあるわけではありません。たまに発表の機会が回ってくるくらいでしょうか。研究室に参加するの宣言=MRTプログラム参加、くらいの認識でいいかもしれません。
- 4 深く考えず、好奇心の赴くままに参加しちゃえばいいとおもう。
- 5 研究に少しでも興味があるのであれば参加してみるといいと思います。
- 6 「テーマを持って実験をしてみたい!」と考えている学生は、決して途中で投げ出さず、確実に最後まで責任を持って結果を出し終える覚悟をもって臨んでほしいと思います。でないと、そもそもラボの方々に失礼です。時間を割いて指導して下さっていること、使っている試薬・物品の代金は各ラボの貴重な研究費から落とされていること、これらを常に意識すべきです。テーマをやり遂げる覚悟がない内はあくまで「実験補佐」として手伝うだけであることをラボの方々に明示してほしいと思います。どっちつかずは最悪です。
- 7 部活もサークルもバイトもしてないという人は一度ラボに足を運んでみてはどうでしょうか。
- 8 研究を「経験したい」という気持ちでも気軽に先生にお話を聞きに行くと良いと思います! 先生方は皆、熱心にお話しして下さいます。
- 9 あきらめずにチャレンジしてみてください。
- 10 自分の興味のある分野のラボで雰囲気合っていれば続けられると思います。
- 11 一般的な部活動などに比べMRTで研究室に所属することは高尚な活動だと思います。せっかくMRTに入ったからにはある程度実験等を少なくとも年単位で行った方が自分のためにもなると思います。
- 12 考えても答えは出ないので直感でやるかやらないかの決断をしたほうがよいと思います。
- 13 正直、失うものは何もない。むしろ、(私のように限られた時間でも) 得ることは多いと思います。迷っている方には、参加をおすすめします。
- 14 実験したいかどうかはさておき、まずはラボに足を運んでみてください!
- 15 研究室に行くことによって時間が奪われることはなく、むしろ時間を抽出する能力が身につく。
- 16 仮面MRTはちょっと... とりあえず死ぬ気でやってみてください。

医学類生にとって理想的なラボとは？

- 1 とりあえず自由に。いつ来ても受け入れてくれる空間。
- 2 以下、漠然としたことですが・・・「ここしかない！」と決まっていなくても、まずは直接ラボに足を運んで、自分がインスピレーションを感じる場所を探すことをお勧めします（それは研究内容であるかもしれないし、指導者である先生や先輩、もしくはその他の何かかもしれません）。
- 3 自分の性格にあったラボ。 とりあえず見学してみてください。
- 4 スケジューリングの融通がきくこと。 気兼ねなく発言出来る雰囲気があること。 医学類生のみならずそれ以外の人と交流出来る環境があること。
- 5 自分のやりたい分野で先進的、面倒見がいい、ラボで勉強して許される。
- 6 成績に支障なく、両立できること。
- 7 強制されるのではなく自分から研究室に通いたいと思うこと。
- 8 自分の時間によってフレキシブルに実験する時間を設定できること ・実験手技だけでなく、考え方や英語などもできること。
- 9 無理に行くと思わず、自ら進んで行きたくなるようなラボ。
- 10 負担にならない程度が良い。
- 11 自分は放牧型にいたので、養殖型のラボがはじめはスムーズに学べるのかなあという印象。 ただし、放牧型では問題解決能力や度胸（？笑）が付きます。実験はとりあえず自分でやってみる→失敗する→方法を変える→失敗する→・・・を繰り返して少しずつ前進するので結果を出すまでにかかなり時間がかかります。おそらく手取り足取り教わってやったらすぐに成功するのでしょうか。。。ただし、将来、独立した時にこの地道な経験が生きてくるのだと信じています。長い目で見たら放牧型もあり（!?)
- 12 その人にとって居心地がよく、その人が望むことが達成できるラボが良いと思います。
- 13 雰囲気は重要視しておいた方が継続力につながると思います。
- 14 雰囲気が良く、かつ学生がしっかりと実験出来る環境があるラボ。
- 15 尊敬できる先生がいて、自分にあった雰囲気の教室が良いのではないのでしょうか。
- 16 授業が犠牲にならずに自分の興味に応じて研究させてもらえるラボ。
- 17 興味のあるテーマを扱っており、指導する先生方との距離が近く質問しやすいところが良いと思います。
- 18 基本的には研究に関しては素人だと思うので、教育熱心な先生がいらっしゃるラボが良いと思います。授業の様子や噂をもとに判断するといいいかなと思います。ただし先生頼りというのも良くないので、自分が興味を持って取り組むことができそうな分野を選ぶというのも大事です。
- 19 新しい自分を発見できるラボ。